

第 151 号

2018 年 5 月 7 日発行

T E L 0193 - 42 - 2111

F A X 0193 - 42 - 3855

発行 大槌町議会

議会報

楽しいゲームで 1 年生を歓迎
(吉里吉里学園小学部)



主な内容

- ・ 予算特別委員会の内容・・・2～3
- ・ 審議した議案・・・・・・・・・・4～5
- ・ 一般質問の内容・・・・・・・・・・6～10
- ・ 特集 復興へのメッセージ・・・11

平成 30 年度予算を審議

産業・なりわい変革により 町民所得向上を目指す

◇ 予算特別委員会 ― ＊

予算特別委員会は、3月8日から14日までの日程で開催されました。委員長に東梅守議員、副委員長に小笠原正年議員を選出し、本会議で付託された30年度一般会計予算など7会計の予算について審査しました。予算特別委員会での審査終了後、本会議を再開し、採決の結果、30年度の一一般会計予算など7会計の予算は、いずれも全議員賛成により原案のとおり可決となりました。

注目事業

30年度に実施される事業の一部を紹介します。

○生産物6次化加工施設整備工事
1億7000万円

第1次産業の振興のため、研究・加工や実証販売、研修宿泊が可能な複合施設を、安渡産業集積地に建設するものです。

○赤浜地区公民館・復興まちづくり支援施設建設事業（第1期工事分）
4億5000万円

（総事業費9億2200万円）

被災した赤浜分館を、避難所の機能を持つ多目的ホールとの合築施設として建設するものです。



31年度中の開館が予定されている

赤浜地区公民館・復興まちづくり支援施設イメージ

○保育士等確保支援事業補助金
1113万円

保育士の確保を支援し保育環境の充実を図るため、民間保育園等が行う保育士の給与の上乗せ、引越越し費用の助成、保育士宿舎の借り上げの経費を補助するものです。

○大槌駅舎整備事業
1億2330万円

平成31年4月の三陸鉄道開通に向けて復旧する大槌駅の建設工事を行うものです。

ひょうたん島デザインの駅舎とし、駅舎や駅前広場に、ひょうこりひょうたん島のキャラクターを配置することなどが計画されています。

○水産業経営基盤復興整備事業補助金
5500万円

漁業協同組合が安渡産業集積地に建設する事務所の建設費用を補助するものです。

一般会計予算に関する質疑の一部を紹介します。

歳入

◎質疑：貴重な自主財源であるふるさと納税寄附金の使い方について、新たな産業を興すなど収入を生み出すような仕組みづくりに活用しては。

◎答弁：現在は、第2子以降の保育料無料化などに充てているが、今後、産業を後押しするような事業にも活用していくことを検討する。

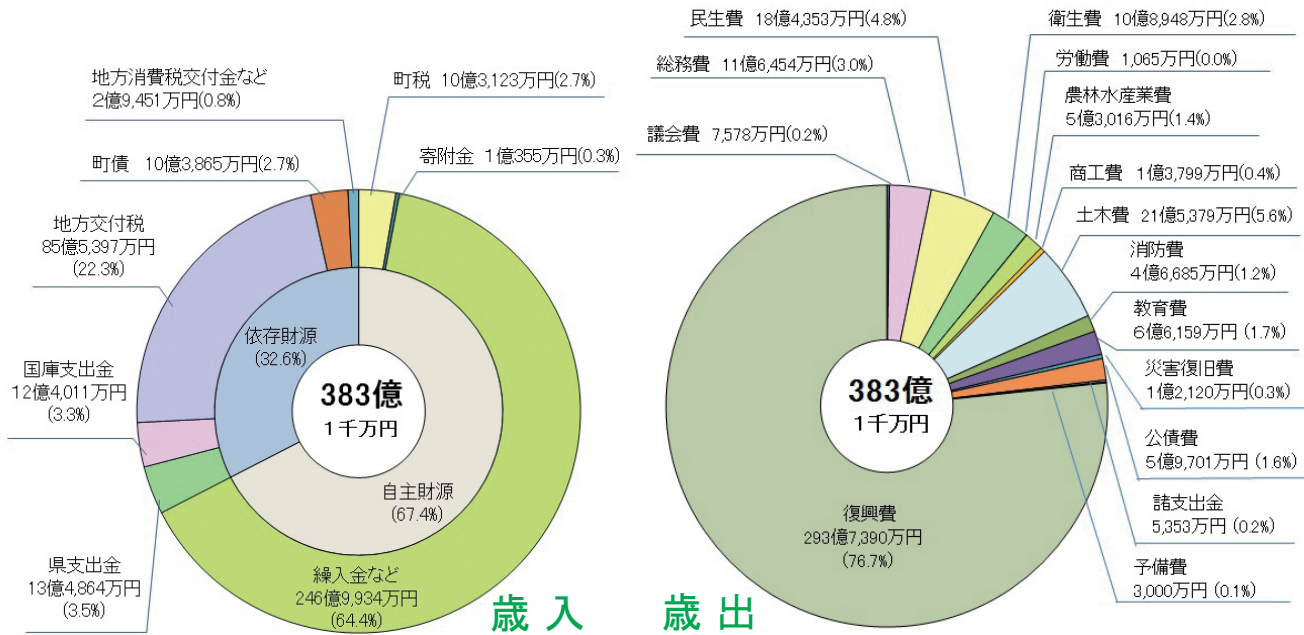
総務費

◎質疑：行政連絡員は地域と行政の連絡という重要な業務を担っているが、充足状況は。

◎答弁：36の行政区のうち町方地区については、行政連絡員が決まっている状況だ。

◎質疑：著作権使用料として150万円が計上されているが、具体的な内容は。

平成30年度 一般会計予算の内訳



平成30年度 各種会計予算額

会計区分	一般会計	特別会計				
		国民健康保険	下水道事業	漁業集落排水処理事業	介護保険	後期高齢者医療
予算額	383 億 1,000 万円	18 億 6,845 万 6 千 円	41 億 5,932 万 2 千 円	16 億 1,041 万円	14 億 3,014 万 5 千 円	1 億 2,083 万 3 千 円

◎質疑：住宅密集地に改修が望まれる河川がある。今後の河川改修の予定は。

◎答弁：第9次の総合計画に盛りこみ、優先度や工事費等を考慮し、随時改修を行っていききたい。

土木費

◎質疑：大槌町奨学金返還助成金の内容は。

◎答弁：奨学金返還者の負担軽減と、町内企業へのU・ターン促進を目的に、奨学金の返還額の2分の1程度、月額2万円を上限として助成を行うもので、30年度から新たに実施する。

労働費

◎答弁：大槌駅の整備に伴いひよっこりひよたん島のキャラクターを使用するため、NHKエンタープライズに対して支払う10年間分の著作権使用料である。なお、被災地であることを配慮した使用料となっている。



栄町グラウンド

◎質疑：運動施設整備基本設計業務委託料の詳細は。

◎答弁：町方の災害危険区域にある新町グラウンド・栄町グラウンドの本設計と、サッカー場の整備を行うための基本設計である。

復興費

◎答弁：御本人や御家族の意向を伺いながら、検討する。

教育費

◎質疑：成人式について、障がい等をお持ちの方で出席が困難な状況にある方もいる。福祉的配慮が必要な方向けの成人式を、全体で行うものとは別に、町独自の自治体もあるが、町の考えは。

◎質疑：仮設店舗の解体費用が予算計上されているが、仮設店舗解体までに再建することが難しい事業者への対応は。

◎答弁：仮設店舗の解体に活用する国の助成金制度が、現時点では30年度までの制度であるため、9月までに退去していただき、その後解体工事を行う予定としているが、再建にまだ時間を要する事業者がいることは把握しており、国の助成金制度の延長や、仮設施設の使用延長ができないか、調整している。

◎質疑：空き地バンク制度の利用を促進するためには、制度の周知が重要となるが、空き地バンク制度の内容だけでなく、被災された住宅の敷地に対する固定資産税の軽減が、33年度で終了する見込みであることも周知すべきではないか。

◎答弁：制度開始前に周知はしているが、今後も丁寧な説明を行う。

◎質疑：仮設店舗の解体費用が予算計上されているが、仮設店舗解体までに再建することが難しい事業者への対応は。

◎答弁：仮設店舗の解体に活用する国の助成金制度が、現時点では30年度までの制度であるため、9月までに退去していただき、その後解体工事を行う予定としているが、再建にまだ時間を要する事業者がいることは把握しており、国の助成金制度の延長や、仮設施設の使用延長ができないか、調整している。

◎質疑：仮設店舗の解体費用が予算計上されているが、仮設店舗解体までに再建することが難しい事業者への対応は。

◎答弁：仮設店舗の解体に活用する国の助成金制度が、現時点では30年度までの制度であるため、9月までに退去していただき、その後解体工事を行う予定としているが、再建にまだ時間を要する事業者がいることは把握しており、国の助成金制度の延長や、仮設施設の使用延長ができないか、調整している。

◎質疑：仮設店舗の解体費用が予算計上されているが、仮設店舗解体までに再建することが難しい事業者への対応は。

◎答弁：仮設店舗の解体に活用する国の助成金制度が、現時点では30年度までの制度であるため、9月までに退去していただき、その後解体工事を行う予定としているが、再建にまだ時間を要する事業者がいることは把握しており、国の助成金制度の延長や、仮設施設の使用延長ができないか、調整している。

第1回定例会

一般質問に5議員が登壇

平成30年第1回定例会は、3月2日から15日までの14日間の会期で開催されました。今期定例会には、「大槌町教育大綱」の策定の報告、大槌町営住宅等条例の一部改正、大槌町立保育所設置条例を廃止する条例、29年度の各会計の補正予算、30年度当初予算、30年度一般会計補正予算など、報告3件、議案55件が提案されました。

また、一般質問には5議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をたどしました。

◆議案—*

《条例の制定・改正・廃止》

◎大槌町文化交流センター条例の制定：平成30年6月に開館予定の（仮称）御社地エリア復興拠点施設（愛称「おしゃっち」）の正式名称を、大槌町文化交流センターと定めるほか、多目的ホール、レッスン室や会議室等の使用料など、必要な事項を定めるものです。
（全員賛成・原案可決）



平成30年6月に開館予定の文化交流センター（おしゃっち）

◎大槌町放課後児童クラブ条例の一部改正：放課後児童クラブの利用者の範囲について、「小学1年から3年まで」を「小学1年から6年まで」に拡大するため、所要の改正を行うものです。
（全員賛成・原案可決）

町立安渡保育所を開所することに伴い公立保育所がなくなることから条例を廃止するものです。
（賛成多数・原案可決）

《契約の締結》

◎工事請負契約の締結：既存のリサイクルセンターが老朽化していることから新施設を建設するため、

◎大槌町営住宅等条例の一部改正：災害公営住宅に入居している被災者で、政令月収が基準額以上である場合、収入超過者と認定され割り増し家賃が適用されますが、収入超過者認定の基準額を、政令月収15万8千円から21万4千円に引き上げるものです。

一般競争入札により株式会社システムハウス・オールアンド

シー・岩手営業所と4億8492万円で建設工事請負契約を締結するものです。

（全員賛成・原案可決）

◎工事請負契約の締結：花輪田地区の排水路について、震災による地盤沈下の影響で排水機能が低下しているため、随意契約により松村建設株式会社と1億2923万2800円で工事請負契約を締結し、雨

また、新たに整備される町営住宅を追加するものです。
（全員賛成・原案可決）

◎大槌町立保育所設置条例の廃止：平成30年3月末をもって

町立安渡保育所を開所することに伴い公立保育所がなくなることから条例を廃止するものです。
（賛成多数・原案可決）

◎大槌町立保育所設置条例の廃止：平成30年3月末をもって

町立安渡保育所を開所することに伴い公立保育所がなくなることから条例を廃止するものです。
（賛成多数・原案可決）

◎大槌町立保育所設置条例の廃止：平成30年3月末をもって

議会の動き

（2月）

- 9日 釜石市市制施行80周年記念式典（釜石市）
- 13日 総務教民常任委員会・産業建設常任委員会
- 15日 九戸村議会行政視察・岩手沿岸南部広域環境組合議会定例会（釜石市）
- 16日 全員協議会
- 19日 釜石大槌地区行政事務組合定例会（釜石市）
- 20日 岩手県後期高齢者医療広域連合議会定例会（盛岡市）
- 20日 県議長会定期総会・東部議長会臨時総会（盛岡市）
- 23日 町方地区土地画整理審議会
- 25日 鮭文化祭
- 26日 東部議長会研修会（普代村）
- 27日 産業建設常任委員会・議会運営委員会

（3月）

- 1日 大槌高校卒業式
- 2日 第1回定例会（15日）
- 3日 議会報編集特別委員会・自衛隊入隊予定者激励会
- 7日 議会運営委員会
- 8日 予算特別委員会（15日）

水排水路の改修と樋管設置工事を行うものです。

(全員賛成・原案可決)

《財産の取得》

◎財産の取得：町方地区災害公営住宅8戸及び附帯施設を、1億4003万640円で取得するものです。

(全員賛成・原案可決)

◎財産の取得：寺野地区災害公営住宅11戸及び附帯施設を、1億8919万3755円で取得するものです。

(全員賛成・原案可決)

《予算》

◎平成29年度大槌町一般会計補正予算(第5号)を定めること：ふるさと納税寄附積立金、保育所運営費委託料などによる増額補正、復興関連事業などの減額補正により、歳入歳出予算

から128億7232万6千円を減額し、

予算の総額を447億6079万3千円とするものです。

(全員賛成・原案可決)

◎平成29年度大槌町一般会計補正予算(第6号)を定めること：国の地方創生拠点整備交付金に採択された産業創出センター整備工事などにより、

歳入歳出予算を2億8千万円増額し、予算

の総額を450億4079万3千円とするものです。

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町一般会計予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町国民健康保険特別会計予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町下水道事業特別会計

予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町漁業集落排水処理事業特別会計予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町介護保険特別会計予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町後期高齢者医療特別会計予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町水道事業会計予算

(全員賛成・原案可決)

◎平成30年度大槌町一般会計補正予算(第1号)を定めること：旧役場庁舎の解体工事に要する費用として4700万円を増額し、予算の総額を383億5700万円とするものです。

(可否同数・議長裁決)

により原案可決)

●議長の裁決権

議会の議事は、議長を除く出席議員の過半数で決まりますが、可否同数のときは、地方自治法第116条第1項の規定により議長が決定します。

《その他》

◎定住自立圏形成協定の締結：大槌町と釜石市が自主性と自立性を尊重しながら、広域的な取り組みを進めるものです。

(全員賛成・原案可決)

◇報告—*

◎「大槌町高齢者のための〇(まる)ごトプラン7」の策定に係る報告：高齢者が安心して生きがいを持って暮らし続けられる地域社会を実現するため、30年度を初年度とする3年間の計画が策定され

たものです。

◎「大槌町教育大綱」

の策定に係る報告：地域の実情に応じた教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の大綱が定められました。

◇請願—*

《不採択となった請願》

◎大槌町役場旧庁舎に関し、未来創造に向けた熟慮を求める請願

(おおづちの未来と命を考える会 代表 高橋 英悟)

《継続審査となった請願》

◎ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシー事業を守る施策推進を求める請願

(生活交通をつくるいわての会 共同代表 一般社団法人岩手県タクシー協会 会長 小野 幸宣ほか)

11日	東日本大震災追悼式
13日	議会活性化特別委員会・総務教民常任委員会・産業建設常任委員会
14日	大槌学園卒業式・吉里吉里学園卒業式・全員協議会
15日	議会運営委員会・議会報編集特別委員会
18日	東日本大震災津波記念碑除幕式(花輪田自治会)
20日	定住自立圏協定締結式(釜石市)
21日	三陸沿岸道路(田老・岩泉)開通式典
22日	沿岸知的障害児施設組合議会定例会(宮古市)
24日	安渡保育所卒園式・閉所式
25日	吉里吉里分館竣工式・消防会館落成祝賀会
《4月》	
2日	つつみこども園開園式
6日	大槌学園入学式・議会報編集特別委員会
7日	大槌高校入学式
16日	定住自立圏共生ビジョン懇談会(釜石市)
23日	政務調査会役員会
27日	政務調査会総会



澤山 美恵子 議員

町民所得向上の方策は

産業の再興・創生を進める

テナント施設整備補助
制度について

【問】平成29年11月から約2カ月の募集期間に応募がなかったと聞いているが、応募がなかった原因をどう捉えているか。

【答】（平野町長）

申請にあたって、「事業予定地」「施設の図面や事業費見積」「入居者リストや設定賃料」などの資料提出を求めているが、2カ月で調整をはかるのは難しかったものと判断される。

事業用地やテナント入居希望者の紹介ができるよう制度の見直しを進めており、準備が整い次第、再募集を行う予定だ。

災害時要配慮者の避難
等について

【問】大槌町地域防災計画に「要配慮者の実態を把握し、避難行動要支援者名簿を整備の上、避難支援プランを策定する」とあるが、実施状況は。

【答】（平野町長）

避難行動要支援者名簿を作成し、釜石警察署や大槌消防署等関係機関に提供しており、民生委員や自主防災組織等にも、順次、名簿の提供を進めている。また、避難支援プランの作成を進め、安全確保を図る体制づくりを推進していく。

【問】各地域にある避難

所・集会所の建築年数と
改修計画について伺う。

【答】（平野町長）

16カ所の指定避難所のうち、11カ所が平成に建築、残り5カ所は昭和に建築された。安全確保に努めるため、必要に応じ施設改修、避難所指定、取り消しを含め、随時見直す。

【問】12月議会でも質問したが、三枚堂大ケロトンネルの大ケロ側出口付近に、雨風をしのげる避難場所が必要と考えるが、町の考えは。

【答】（平野町長）

要望があることは承知



大ケロ地区の通行どめになっている避難路

している。しっかり考えていきたい。

コミュニティづくり
について

【問】コミュニティ形成を進める上での課題と、来年度の体制は。

【答】（平野町長）

若い世代の参画が少な

く、自治会等の担い手が確保しにくい状態であり、地域や身の回りの課題を「我が事」と捉える住民の意識醸成はまだ十分ではない。今後は地域コーディネーターを担い手として育成しつつ、住民主体の地域社会を築き上げていく。

【問】目標を実現するための
具体策は。

【答】（平野町長）

町民所得向上のためには、産業の再興・創生が重要であると考え、漁協事務所の再建補助、生産物6次化加工施設整備事業を行う。また、観光物産協会を一般社団法人観光交流協会として新設し、観光・物産振興にも取り組む。町民と一丸となつて、10年後、所得向上という大輪の花を咲かせるよう事業展開を図る。

旧役場庁舎解体はなぜ「今」なのか

これ以上決断を先延ばしできない



小笠原 正 年 議員

旧役場庁舎の解体について

【問】旧役場庁舎の解体に反対の立場だ。町長は、解体を主張する方に寄り添いたいと言うが、解体に反対する方に、どんな納得を求めるのか。

【答】（平野町長）

旧役場庁舎を解体することを公約として町長に就任した以上、それに従い解体予算を計上することは当然のことと考える。しかし、解体に反対される方々にとっては、納得することは非常に困難であることは承知しており、就任直後から、町民の皆様と意見交換を重ね、解体に反対される方々の声

にも真摯に耳を傾けてきた。また、避難施設の整備や震災伝承事業など、命を守る多重防災の取り組みを進めてきた。

町の未来のために真摯に取り組んできたことについて御理解いただいた

【問】なぜ今なのか。

【答】（平野町長）

旧庁舎を目にすることには耐えがたいと思われる方々、見るだけでつらいと、旧役場庁舎の解体を望む方々がいる。その方々の気持ちを無視し、これ以上決断を先延ばしすることはできないと考

【問】役場組織として、震災検証は本当に済んでいるのか。

【答】（平野町長）

25検証は、役場職員への対応と被災地における組織と住民の対応を検証し、地域防災計画に反映していく。28検証は、役場職員の犠牲を防ぎ得なかった原因、背景を探り、抜本的な改善を図るための方向を示し、防災対策に生かしていく。

2つの検証を踏まえ、地域防災力を高めるため、防災会議の中で検証は継続して実施している。

大槌を「おおづち」と呼び新たなイメージを発信することについて

【問】大槌を「おおづち」とはなく「おおづち」と呼ぶべきと考えるが、町の広報誌のタイトルが「おおづち」になった経緯は、

【答】（平野町長）

昭和32年2月の創刊時は「大槌町報」、昭和40年



昭和32年の創刊号（右）と平成21年5月発行号（左）

【答】（平野町長）

9月発行号からは「広報大槌」と漢字表記、昭和44年5月発行号からは「広報大槌」と漢字表記した上で「おおづち」と振り仮名を表記し、昭和53年4月発行号からは現在と同じ平仮名で表記している。東日本大震災後は、デザインの関係でアルファベット表記や漢字表記を併用するなどの変更はあるが、平仮名表記は継続して用いている。

【問】大槌の呼称を「おおづち」から「おおづち」に変更することについて、町の見解は。

地方公共団体の名称は、地方自治法上、従来の名称によるものとして規定されており、歴史的・沿革的な背景によるものが大きく、様々な見解があることも理解できる。しかし「おおづちちゃん」の呼称については、既に長年に渡り広く定着しており、町民の生活に支障が出るものではなく、また、呼称を変更すると行政システムなど多方面に影響を及ぼすため、今後も「おおづちちゃん」の呼称を変更する考えはない。



東 梅 守 議員

空き地バンク制度利用促進の取り組みは

的確な情報提供を行う

空き地バンク制度による宅地取得補助と住宅建設補助について

【問】平成29年8月に制度がスタートしたが、空き地バンク制度を利用して宅地を取得し、その宅地に住宅を建設したことによる補助金の交付はまだまだないという状況だ。成果と課題は。

【答】（平野町長）

2月23日現在、町方地区を中心に36件の物件が登録され、うち9件の取引が成立、3件が商談中である。物件の登録件数は着実に増加しているが、制度の案内を再度送付するなど、物件登録数の増加に向けて取り組む。



大槌駅ロータリーから町方地区を臨む

【問】土地を買いいたい方と売りたい方のニーズをマッチングさせることが重要だと考えるが、現在の取り組みは。

【答】（土澤コミュニティ総合支援室長）

利用者登録の際に希望条件を伺い、的確な情報提供を行う。また、地権

者の方へ制度の案内をするなど、物件登録数を増やし、マッチング率を高めていきたい。

旧役場庁舎をめぐる課題と政治姿勢について

【問】今後の防災を考える上で、旧役場庁舎以外の検証も必要ではないか。

【答】（平野町長）

25検証において、国、県、周辺市町等の災害対応について注視するとともに、地域住民による避難行動など、災害対応の検証も実施している。

【問】広く掘り下げて検証すべきと考えるが、これまでの検証で十分と考えるのか、なぜ今なのか。

るのか。

【答】（三浦総務部長）

検証の内容を防災計画等に反映し、今後につなげていくことを主眼に検証を行ってきた。不十分な内容ではないと考えている。

町の防災について、防災会議で引き続き議論しており、検証は継続していると考えている。

【問】旧役場庁舎の解体について議論を重ねてきたが、どんなに議論しても、町長は、解体方針を変えないと繰り返し発言している。

町長はなぜ解体を急ぐのか、なぜ今なのか。

【答】（平野町長）

旧役場庁舎を解体することを公約として町長に就任した。

旧役場庁舎で多くの犠牲者が出ており、これまで目にするのに耐えがたい思いをしながら生活されてきた方々がいらつしやることを考えると、まず第一にそういった方々の気持ちに寄り添いたい。その方々にこれ以上我慢をしてくださいたは言えない。

解体に反対される方々の思いや考えにもこたえるため、東日本大震災津波の悲惨さや教訓を「忘れない」「伝える」「備える」取り組みを続けていく。

ＵＩターン者は災害公営住宅に入居可能か

可能だが現時点では被災者のみとしている



阿部俊作議員

災害の伝承とまちの未来について

【問】津波被害を最小限に食い止めるには、地球の自然を学習し理解することが大事だと考える。旧役場庁舎の存廃は、町の未来像をどう描くかによって町民に理解される。町長の考えは。

【答】（平野町長）

教育を通じて、防災に必要な意識、想定外の状態に対応する力を育てたい。

ハード・ソフト両面の施策を総動員し、多重防災のまちづくりを進め、未来へ続く安心・安全な町を構築する。

人口問題について

【問】子ども医療費助成を高校生まで拡充し、健康保険適用分の自己負担額を窓口で支払わなくてもよい「現物給付」にしてもよいのではないか。

【答】（平野町長）

県の補助制度の動向や他の自治体の状況を踏まえ検討する。

現物給付の対象拡大は望ましいが、現物給付を実施すると国民健康保険に対する国庫負担金が減額されることが課題である。国に対し国庫負担金減額調整の廃止と、国の制度として無料化を実施するよう要望する。



町方地区の災害公営住宅

【問】ＵＩターンで当町に住む人も、災害公営住宅に入居できないか。

【答】（那須復興局長）

災害公営住宅の入居者が被災者のみと制限される期間は発災後３年間であり、制度上は被災者以外の入居も可能だが、仮設住宅にまだ多くの被災者が暮らしている状況にあるため、災害公営住宅の入居は被災者のみとしている。

【答】（石橋住宅課長）

町の災害公営住宅は、30年度には99パーセントが完成するため、災害公営住宅から町営住宅に切り替えることを検討しなければならないと考えている。

【問】仮設住宅に住むＵＩターン者で、仮設住宅集約後に住むところがない場合、仮設住宅に住み続けられないか。

【答】（土澤コミュニティ総合支援室長）

仮設住宅の目的外使用の延長を検討する。町民が町外に流出しないようにしっかりと対応する。

交通網の整備について

【問】交通網の整備は重要課題である。土坂峠トンネル化の運動計画の取り組み状況は。

【答】（平野町長）

今年度、当初予算で土坂トンネル早期実現のための予算を計上している。町民と一体となった集会は、29年度の予算を一部繰り越して実施する。



トンネル化が望まれる土坂峠



芳賀 潤 議員

庁舎があつたことを伝える表示を設置しては

今後検討を進める

旧庁舎解体後の跡地利
用について

【問】旧庁舎解体後の跡地を、防災空地として整備し、イベント開催時の駐車場等としての活用も検討しているとのことだが、役場庁舎が数十年間その地にあつたことは事実であり、解体後に旧庁舎跡地としてモニメント等の設置についても、時間をかけて検討すべきと考えるが、町の見解は。

【答】（平野町長）

現時点ではモニメント等の設置は考えていないが、今後、何らかの表示の検討を進めたいと考えている。

町の福祉施策について

【問】30年度から32年度までの第7期老人福祉計画・介護保険事業計画「大槌町高齢者のための〇（まる）ごとプラン」が策定されたが、新規事業と利用見込みは。

【答】（平野町長）

計画期間中の新たな取り組みは、小規模多機能型居宅介護サービス、認知症対応型共同生活介護サービス、通所介護サービスについて、それぞれ1カ所ずつ新規開設を見込んでいる。
それぞれの利用見込み量は、既存施設を含め、小規模多機能型居宅介護

サービスでは552人、認知症対応型共同生活介護サービスでは348人、通所介護サービスでは、1380回を想定している。

子ども・子育て支援について

【問】3月末に公立保育所が閉所され、4月には認定こども園が開園する。行政と民間が連携し、よい子ども・子育て環境を構築しなければならぬが、町の責任と民間との連携について伺う。

【答】（平野町長）

保育所における定員超過や待機児童は、保育士等を確保することにより

改善が可能と考え、民間施設の保育士等の確保を支援する新たな取り組みとして「保育士等確保支援事業補助」を行う。具体的には、民間施設が処遇改善のための給与の上乗せや引越越し費用の助成、宿舍の借り上げを行う場合の経費を町が支援するものであり、30年度から3年間で保育士の拡充を目指す。

民間施設における保育体制の整備を支援し、連携して保育環境の充実を図る。

大槌町観光物産協会の役割と期待について

【問】大槌町観光物産協会は、現在、町の商工観光



盛岡で行われた物産販売

課が事務を担っているが、町をPRし、交流人口の拡大につなげるべく一般社団法人化される。また、大槌駅舎の指定管理を委託する計画もある。

町の活性化を担う観光物産協会と行政の今後の

かわりと、支援策について伺う。

【答】（平野町長）

町が担う役割は、観光振興に係る総合企画、県や他市町村との広域連携業務、ブランド化に向けた商品開発などの推進であり、一般社団法人大槌町観光交流協会には、大槌駅を拠点に民間主導の観光振興を推進できるよう、同協会が民間の中核的団体として集客イベントや物産販売の実施など観光関連事業者をリードしていくことを期待している。

町としては、当面の間、大槌町観光交流協会事務局の人員費の負担等を行なうほか、自立した組織となるよう収益事業の拡大を支援する。

復興へのメッセージ ～地域の声～

東日本大震災大津波から7年の月日が経過しました。
地域の声として、自治会長・公民館長から復興への
メッセージをいただきました。



白沢自治会 会長

東梅 英夫さん



吉里吉里公民館長

芳賀 博典さん

吉里吉里再生宣言

吉里吉里の復興は、第一に生活の拠点となる住宅再建と同時に、住民の笑顔と意欲を取り戻すべく心の復興が重要との観点で始まりました。住宅再建が進み、昨年から町内会再編へと歩みを進めています。若い人たちの積極的な意見や意欲的な姿勢が目立ち、先人の築いた自助・共助のまちづくりが生きていると痛

感じ、うれしさで心強さを感じた次第です。区割り決定、役員選出等、実施に向けての協議が進み4月には総会開催の運びとなりました。いよいよ吉里吉里復興丸の船出です。新公民館を港とし、地域文化と震災時の経験を生かした全住民参加型の懐かしさと新しさをあわせ持つ「新・吉里吉里」を、手を携え築きます。

未来に誇れる地域の文化創造を

町はずれの閑散な集落「ぜあごうく在郷」だった白沢地区が町になる。「アレア」この人だあ月並みではあるが先住の人々と新たに居住される方々とのコミュニティ構築が最優先課題であることから、昨年4月に白沢自治会を結成した。基本方針は強力に目標や課題推進を急ぐので

はなく、住民の意見や要望を主体に緩やかに「オラ達の町」を作り上げていく、である。自治会はその媒体となり地域の古くからの文化や風習に積極的にかかわっていただき、「オラ達の誇れる地域文化創造」を目指している。



自治会の皆さんと白沢地区の地図を囲んで



吉里吉里大運動会

表紙写真



表紙の写真は、平成30年4月18日に吉里吉里学園小学部で行われた「1年生を迎える会」の様子です。

初めは少し緊張している様子の1年生でしたが、上級生のお兄さんお姉さんに手を引かれ一緒にゲームをするうちに笑顔になっていました。



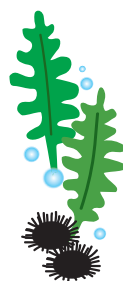
表紙タイトル



今回の表紙タイトル「おおつち」は、吉里吉里学園小学部4年生（29年度12月時）の黒澤遼さんに書いていただきました。デザインに込めた思いなどを伺いました。

◆どんなテーマで描いたのですか。

◇海をテーマにして描きました。水産業が盛んなので、これがいかなと思って描きました。



◆大槌町のどんなところが好きですか。

◇水産業が盛んなところ です。

◆大槌町がどんな町になったらいいと思いますか。

◇安全で、もっと水産業が盛んなまちになったらいいと思います。

町議会を傍聴してみませんか

町議会定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回、役場3階の議場で開かれます。

町で今何が課題となっているかなど、議場での議員の活動を実際に見て、知っていただく機会です。傍聴の手続きは簡単ですので、ぜひ傍聴にいらしてください。

また、定例会の様子は「おおチャンネル」でも視聴いただけます。



●6月定例会は6月1日（金）開会予定です
（予定は変更される場合があります）

定例会 議員出欠表

議席番号	議員氏名	第1回定例会	
		(3/2～3/15)	
		出席	欠席
1	佐々木慶一	9	0
2	下村 義則	9	0
3	澤山美恵子	9	0
5	阿部 三平	9	0
6	小笠原正年	9	0
7	東梅 守	9	0
8	阿部 俊作	9	0
9	東梅 康悦	9	0
10	及川 伸	9	0
11	金崎 悟朗	9	0
12	阿部 義正	9	0
13	芳賀 潤	9	0
14	小松 則明	9	0

編集後記

▼派遣職員として平成29年4月から一年間、議会事務局でお世話になりました。

議会報の編集に携わる中で、大槌学園・吉里吉里学園で写真撮影をする機会がありました。学園生の皆さんはいつも元気な挨拶で迎えてくれ、学園を訪問するたび元気をもらいました。

両学園には、議会報のタイトル作成にも御協力いただいています。毎号1作品しか掲載できないのですが、残念ながら掲載できなかった作品も、町に対する思いをそれぞれの視点でデザイン化したすばらしい作品ばかりです。

御協力いただいたすべての皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

（議会事務局 高木 容子）

議会報編集特別委員会

委員長 佐々木慶一
副委員長 阿部 俊作
委員 東梅 守
委員 阿部 三平
委員 下村 義則